

平成 23 年 5 月 12 日

会社名 **株 式 会 社 C S K**
 代表者名 代表取締役社長 中西 毅
 問合せ先 経 理 部 長 岡 恭 彦
 電話番号 0 3 - 6 4 3 8 - 3 0 3 0
 (コード番号 9737 東証 第一部)

平成 23 年 3 月期 連結決算の要旨

● 前期比サマリー

(単位:億円)

	2009/03	2010/03	2011/03	前期比増減	
				増減額	増減率
売上高	2,060.9	1,695.1	1,403.8	△291.3	△17.2%
営業利益	△1,230.6	41.7	70.0	28.2	67.7%
営業利益率	△59.7%	2.5%	5.0%	2.5%	-
経常利益	△1,224.7	29.1	32.7	3.5	12.2%
当期純利益(△損失)	△1,615.2	△591.8	△77.7	514.0	-

売上高 及び 営業利益 :

- 売上高は、情報サービス事業への選択と集中の方針のもと、コスモ証券㈱の株式譲渡をはじめとした事業整理による減収に加え、不透明な経済環境を背景に、企業の新規投資の先送りによる案件不足や当初予算見直し、株式市場の低迷により証券会社向けサービスが減少したこと等の影響で、1,403.8億円(前連結会計年度比17.2%減)となりました。
- 営業利益は、減収の影響があるものの、前連結会計年度より取り組んできましたグループ管理機能の適正化を中心としたコスト構造の見直しや、不採算事業からの撤退により70.0億円(前連結会計年度比67.7%増)となりました。

経常利益 及び 当期純利益 :

- 経常利益は、貸付債権に対する貸倒引当金繰入額24.9億円や投資有価証券売却損10.9億円等の計上がありました。営業利益の増益により32.7億円(前連結会計年度比12.2%増)となりました。
- 当期純利益は、証券事業撤退損失89.0億円や減損損失30.0億円を含む特別損失148.1億円が発生する一方、繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額の戻入47.7億円により、77.7億円の当期純損失(前連結会計年度591.8億円の当期純損失)となりました。

● セグメント別 業績（連結）【前期比較】

（単位：億円）

	2010/03		2011/03		増減	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
情報サービス	1,564.6	114.4	1,451.6	99.7	△ 112.9	△ 14.6
BPO	304.4	4.9	311.7	5.2	7.2	0.3
ITマネジメント	359.8	24.4	310.0	18.9	△ 49.7	△ 5.5
システム開発	900.2	85.0	829.9	75.5	△ 70.3	△ 9.4
プリペイドカード	31.9	2.3	35.9	5.5	4.0	3.2
報告セグメント合計	1,596.5	116.7	1,487.6	105.3	△ 108.9	△ 11.4
その他	213.6	△ 21.8	4.7	△ 2.3	△ 208.9	19.5
合計	1,810.1	94.8	1,492.3	102.9	△ 317.8	8.0
調整額(全社等)	△ 114.9	△ 53.1	△ 88.4	△ 32.9	26.5	20.2
連結	1,695.1	41.7	1,403.8	70.0	△ 291.3	28.2

※ BPO、ITマネジメント、システム開発の3報告セグメント合計を情報サービスとし、前期(2010/03)については当期の報告セグメントに組み替えて表示しております。

※ セグメント間取引の売上を含んでおります。

BPO

- 売上高は、コンタクトセンター事業において既存顧客との取引高の拡大と、検証サービスの増加により 311.7 億円（前連結会計年度比 2.4%増）となりました。営業利益は、増収の影響により 5.2 億円（同 6.9%増）となりました。

ITマネジメント

- 売上高は、顧客の値下げ要請や内製化によるシステム運用サービスの減少、機器販売の減少により 310.0 億円（前連結会計年度比 13.8%減）となりました。営業利益は、減収の影響により 18.9 億円（同 22.6%減）となりました。

システム開発

- 売上高は、顧客の当初予算の見直しや規模縮小、新規投資の先送り等による開発案件の減少や、証券会社向けASPサービスの減少により 829.9 億円（前連結会計年度比 7.8%減）となりました。営業利益は、減収の影響により 75.5 億円（同 11.2%減）となりました。

上記3報告セグメントを合計した情報サービスでは、コスト構造見直しによる削減効果はあるものの、IT市場全般の回復が遅れていることなどを背景に減収・減益となり、売上高 1,451.6 億円（前連結会計年度比 7.2%減）、営業利益 99.7 億円（同 12.8%減）となりました。

プリペイドカード

- 売上高は、クオカードの加盟店店舗数の拡大やギフトカードの発行増加、エコポイント交換需要等によるカード発行量の増加に伴い、カード発行関連売上、機器販売、カード預り金運用収益が増加し 35.9 億円（前連結会計年度比 12.6%増）となりました。営業利益は、増収の影響により 5.5 億円（同 140.0%増）となりました。

その他

- 売上高は、既に事業撤退しているベンチャーキャピタル事業、投資信託委託業等での売上高であり、4.7 億円（前連結会計年度比 97.8%減）となりました。なお、前連結会計年度には証券事業や金融サービス事業等の売上高が含まれております。営業利益は、2.3 億円の営業損失となったものの、前連結会計年度と比較して金融サービス事業の撤退等により、赤字幅が 19.5 億円改善しております。

● 次期の見通し

東日本大震災による甚大な被害、震災に伴う原子力発電所事故及び電力供給の制限等は、当面の間、わが国の経済活動に対する相応の制約となるとみられます。わが国経済の先行きが不透明な中、顧客企業の IT 投資の抑制が懸念される一方で、BCP（事業継続計画）に対する関心の高まりから、当社グループが得意とするデータセンターを活用した高度で安定的なシステム運用及び地方拠点を活用した効率的な業務運用へのニーズは相対的に高まると見込んでおります。以上の状況から、次期の見通しにつきましては記載のとおりとしております。

なお、前期より取り組みを推進しております、事業構造・原価構造の抜本的見直し、販売費及び一般管理費の適正化、資産のスリム化の実施等の効果により、安定的に収益を生み出す体質への転換が進んでおり、次期については当期純利益の黒字化を見込んでおります。

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期	1,420.0	73.0	72.5	51.5
参考：平成 23 年 3 月期実績	1,403.8	70.0	32.7	△77.7

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。

実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上